

◎中学生ワークショップの報告

1 浦賀中学校

日 程：令和2年10月～11月

テ マ：「温故知新 society5.0 時代～横須賀の未来を創造する～」

参 加 者：3年生全生徒（7クラス246人）

実施概要：・各クラス内4～5名のグループに分かれ、分野ごとに未来の姿についての議論、方策の検討

・各グループで検討した方策を発表（10月29日）※クラス代表を選考

・クラス代表の発表（11月5日）

主な発表内容：

●環境を改善し、移住者を増やす

コロナ禍の影響で都心を離れる人を見込み、自然豊かで都心へのアクセスも程よい横須賀をイメージアップし移住者を増やす。具体的には歩道などの街の緑化を進める。

●横須賀を観光都市に

横須賀の特徴であるベースを活用して、観光客を呼ぶ。そして、集まったお金を横須賀の課題である高齢福祉に使う。

●横須賀目安箱で作る暮らしやすいまち

リアルやネットで、目安箱を設置して幅広い世代の意見を取り入れるようにし、市民全員の意識も高めて、住みやすい街をつくる。

●横須賀の企業

横須賀では企業数や、事業者数が減っている。横須賀の物や製品を積極的に買った、横須賀の名物を増やして、商店街などを応援する。

●産業を盛り上げよう

横須賀の作物のおいしさをPR、農漁業体験、おしゃれな飲食店（よこすかふえ）などで、横須賀に来てもらったり、横須賀の物を買ってもらい、産業の発展を促す。

●お祭りで人を集めよう

神輿などのお祭りで、学生ボランティアが屋台を手伝ったり、外国人が神輿担ぎに参加したりして、様々な人を集める。

●イノベーション in 横須賀

5G環境や土地を整備し、IT企業を誘致して、横須賀の産業を発展させる。

2 野比中学校

日 程：令和2年10月～11月

テ ー マ：「私の好きな横須賀の宝物～10年後もっと良くしていくためにどんなことができるか、やっていきたいか～」

参 加 者：3年生全生徒（3クラス123人）

実施概要：・生徒一人ひとりが「私が好きな横須賀」のイメージ写真とそれを選んだ理由の書き出し。

・各クラス内で6～7人のグループに分かれて、「未来のよこすかに残したいもの、発展させたいこと」などについてワークショップを行った。

(11月13日)

主な意見：

●横須賀の宝物として、海をはじめとする自然環境を挙げる生徒がほとんどで、都市とのバランスが丁度いいという意見が多かった。その他自然環境でも、景観や、自然を身近に感じること、スローライフ的な雰囲気、また、公園や歴史遺産等、様々な視点の意見が出た。

- ・田舎過ぎず、都会過ぎなくて丁度いい、歴史や文化もある
- ・これまで守られてきた景色を未来に残したい
- ・散歩したり、ランニングしたり、海を身近に感じることが幸せ
- ・のんびりしている、空が広く解放感がある、落ち着ける場所

●やっていきたいこととして、自然環境を守るため、日常的に美化に努めるという意見が多かった。その他開発を制限したり、景観を統一したりするという意見や、横須賀の自然の良さをPRして市外の人に来てもらうことが必要だという意見も出た。

- ・海や街をきれいにする、自然はそのままにしておく
- ・ビルとかをつくらない、街の建物の色を統一する、歩道を広くする、緑化する
- ・新鮮な食や海沿いでランニング、ヨガなどの運動、リフレッシュで健康な街に
- ・横須賀の良さを自分たちも知って、それを市外の人に発信していく
- ・海上自衛隊やベースを絡めて、横須賀ならではの体験ができるようにする

●その他、大きくなっても横須賀に住んでいたい。一度、大学や就職で東京、横浜に行ってもいずれ帰ってきたいと、郷土愛を持っている生徒が多くいた。一方、東京や横浜の都会的な雰囲気や利便性が良い、そちらの方が仕事があるという意見もあった。また、自分たちの世代が、遊んだり、勉強したりと集まれる場所が少ないという賑わいを求める声もあった。

- ・今のままでいい、今の自然や遺産、地域のお祭りなどがそのままいてほしい
- ・賃金が低く、働くために都会に出ないといけない
- ・遊んだり、洋服などの買い物をしたりする場所が少ない
- ・スケボーができる場所を増やす、お金がかからずに遊べる場所がほしい